

西宮市の決算の概要
～平成25年度版～

平成26年10月

西宮市 政策局 財政部 財政課

目次

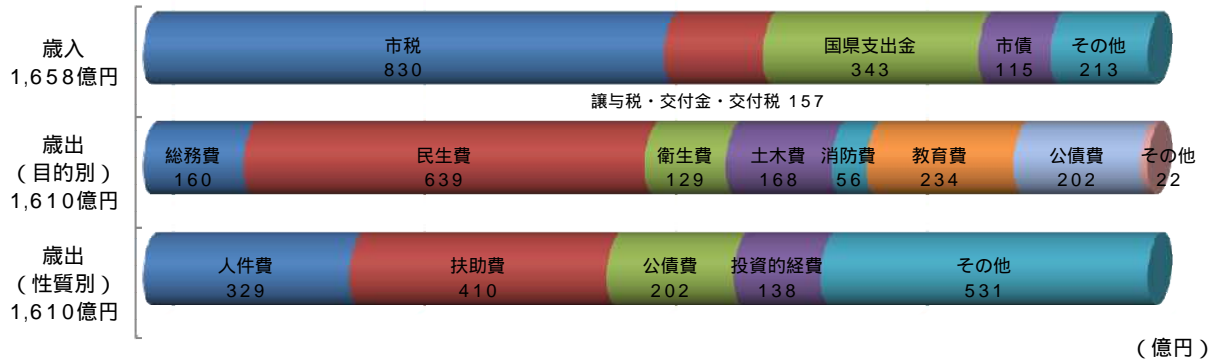
1 .	決算の概要	1
2 .	歳入の状況	2
3 .	市税の状況	3
4 .	歳出の状況	
(1)	目的別	4
(2)	性質別	5
5 .	特別会計の決算状況	6
6 .	西宮市の貯金	6
7 .	西宮市の借金	
(1)	市債の元金返済額と借入額の推移	7
(2)	市債現在高の推移	7
8 .	投資的事業の状況	8
9 .	主な財政指標	
(1)	経常収支比率	9
(2)	財政力指数	10
10 .	市民一人あたりの決算額	
(1)	歳入	11
(2)	歳出	11
(3)	市債残高および基金残高	11

1. 決算の概要

Point!

歳入から歳出を差し引いた47億6千万円から、翌年度に繰り越した事業の財源(2億8千万円)を引いた44億8千万円が実質的な黒字です。

平成25年度一般会計決算状況

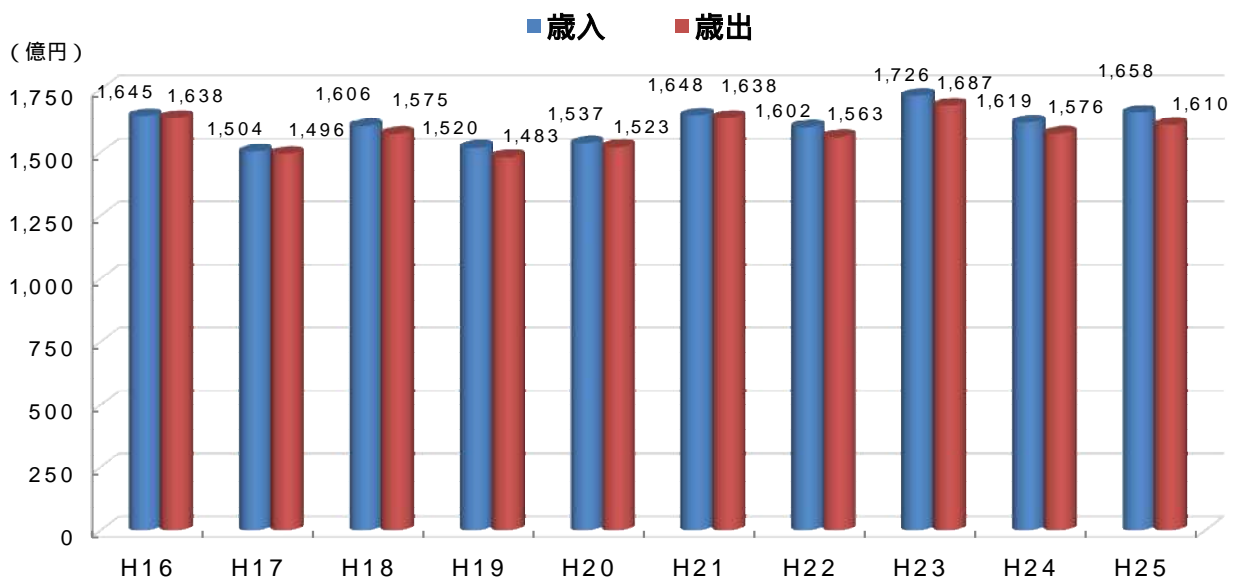


平成25年度は、学校施設をはじめとする公共施設の耐震化や老朽化による改修・改築のほか、保育所の待機児童対策などの子育て支援や障害者施策、通学路や歩道の安全対策など、市民ニーズの高い施策や安心・安全を高めるための事業を実施しました。

一般会計の決算額については、借金の返済である公債費や施設の建設費などの投資的経費は減額となりましたが、社会保障関係経費などの扶助費の増や学校給食費の予算を市の予算に組み込んだこと(給食食材の購入や運搬等を直営化)などにより歳入・歳出ともに前年度決算額を上回りました。

また、市の貯金である基金の取り崩しなどの財政対策によることなく実質収支の黒字を確保することができました。歳入では市税や交付金などが予算を上回り、歳出では経費の節減などにより、44億8千万円の黒字になりました。なお、実質収支の1/2(22億4千万円)は財政基金に積み立て、残りの1/2は平成26年度の財源として活用します。

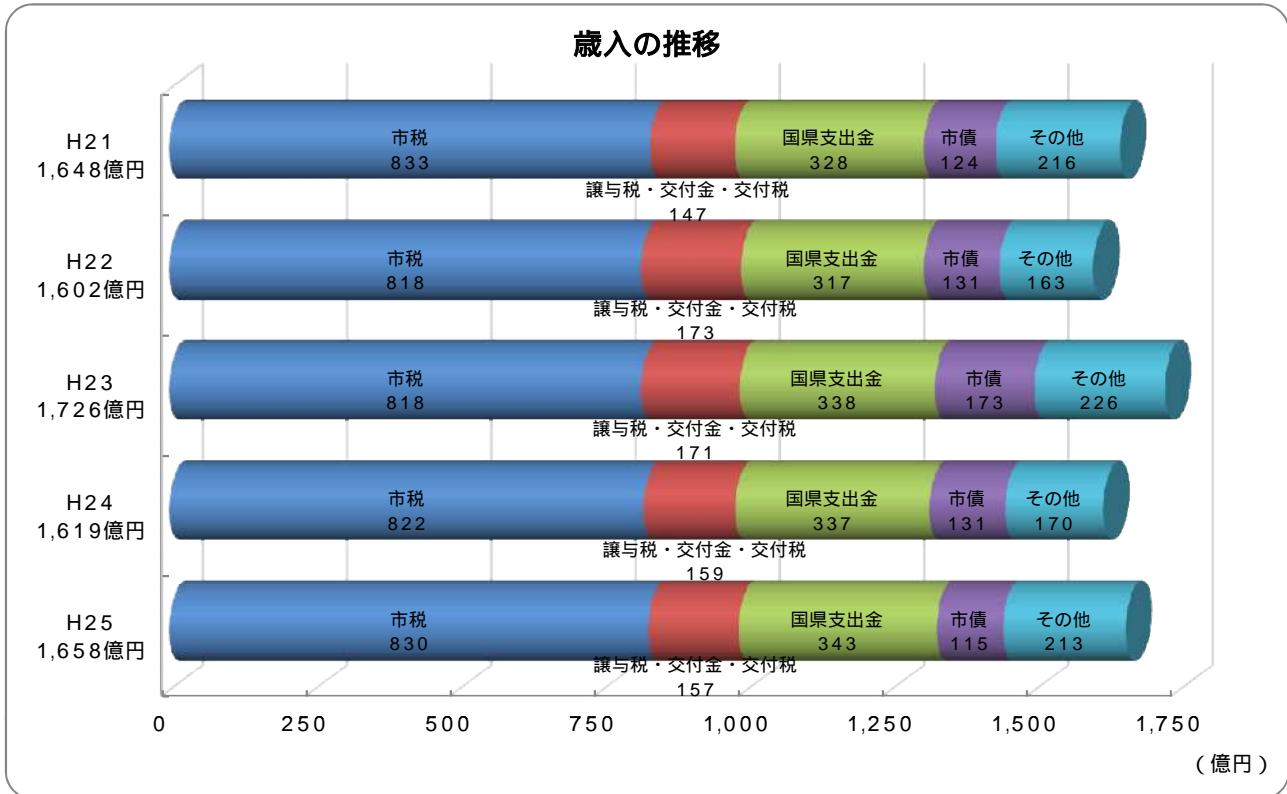
過去10年間の一般会計における歳入歳出決算額の推移は以下のとおりです。



2. 歳入の状況

Point!

市税収入が歳入全体の50.1%を占めており、H24年度に比べ増加しています。また、歳入全体でも増加しており、市債(借金)は減少しています。



<市 税> 個人市民税の増等により、前年度に比べ8億1千万円の増額となっています。前年度に引き続き2年連続の増額となっています。

<譲与税・交付金・交付税>

企業業績の改善や株価上昇などの影響により株式等譲渡所得割交付金や配当割交付金が増額となりましたが、市税収入等の増の影響により地方交付税が減額となったことなどから、前年度に比べ1億4千万円の減額となっています。

<国県支出金>

国の地域経済活性化対策として、地域の元気臨時交付金が交付されたことなどにより前年度に比べ5億7千万円の増額となっています。

<市 債> H24年度に東部総合処理センターが完成したことなどにより、前年度に比べ1億5千万円の減額となっています。

<その他>

学校給食費の予算を市の予算に組み込んだことによる学校給食費負担金収入の皆増や仮称第46小学校(高木北小学校)新設事業に伴う代替用地の売払い収入の増などにより、前年度に比べ4億2千万円の増額となっています。

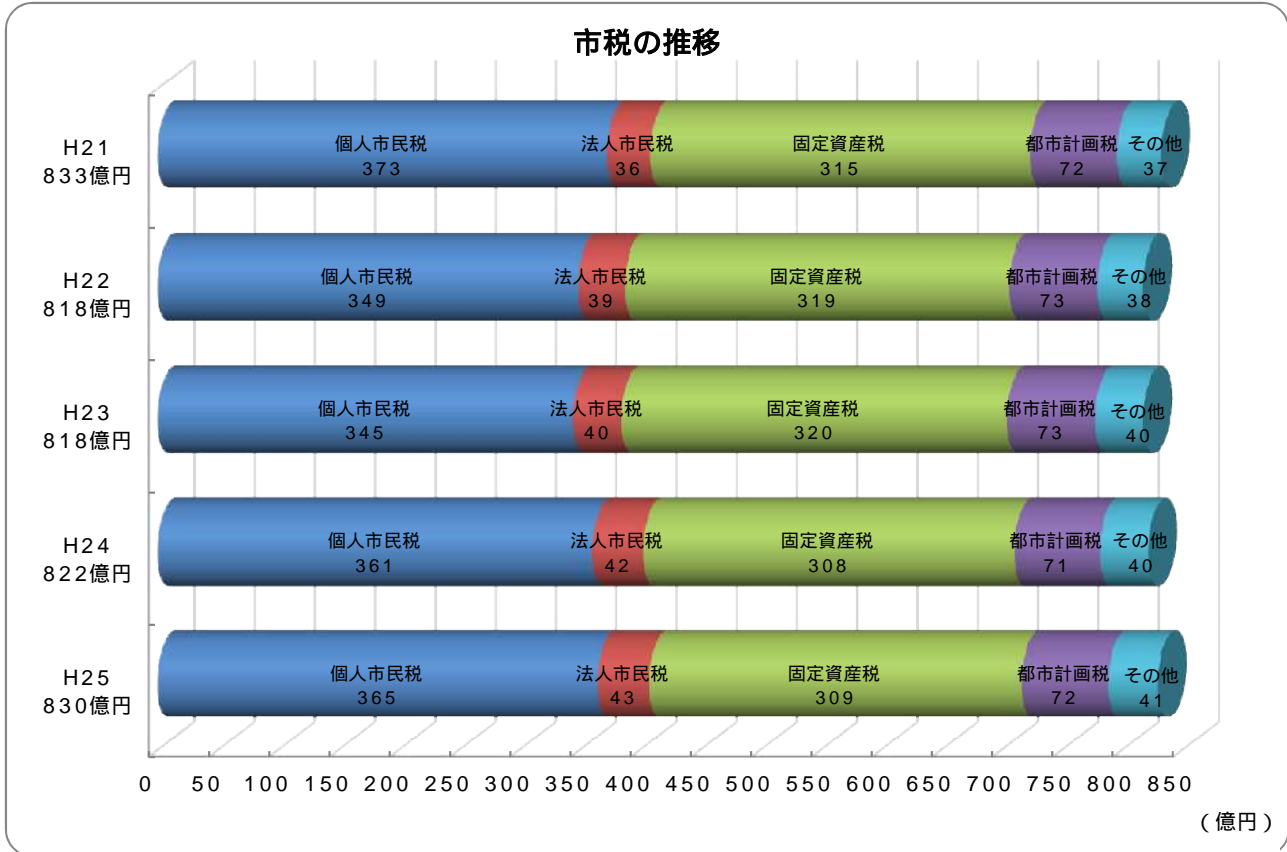
~用語解説~

譲与税・交付金・交付税・・・国税(自動車重量税など)や県税(地方消費税や自動車取得税など)として収入されたもののうち、市に一定割合が配分される収入や地方交付税などのことです。

3 . 市税の状況

Point!

景気の緩やかな回復により企業収益や個人所得に改善の兆しが見られ、H24年度に引き続き2年連続の増額となっています。



その他は市たばこ税・事業所税・軽自動車税・入湯税など。

< 個人市民税 >

ここ数年減少傾向にありましたが、H24年度以降は年少扶養控除の廃止や給与所得の増等により増額となっています(前年度比4億円の増)。

< 法人市民税 >

リーマンショックの影響により大幅に落ち込みましたが、その後回復基調にあります。H25年度は企業収益の改善により、前年度に比べ6千万円の増額となっています。

< 固定資産税及び都市計画税 >

H24年度は評価替えの影響により減額となりましたが、H25年度は家屋の新増築等により固定資産税が1億4千万円の増額、都市計画税が7千万円の増額となっています。

< その他 >

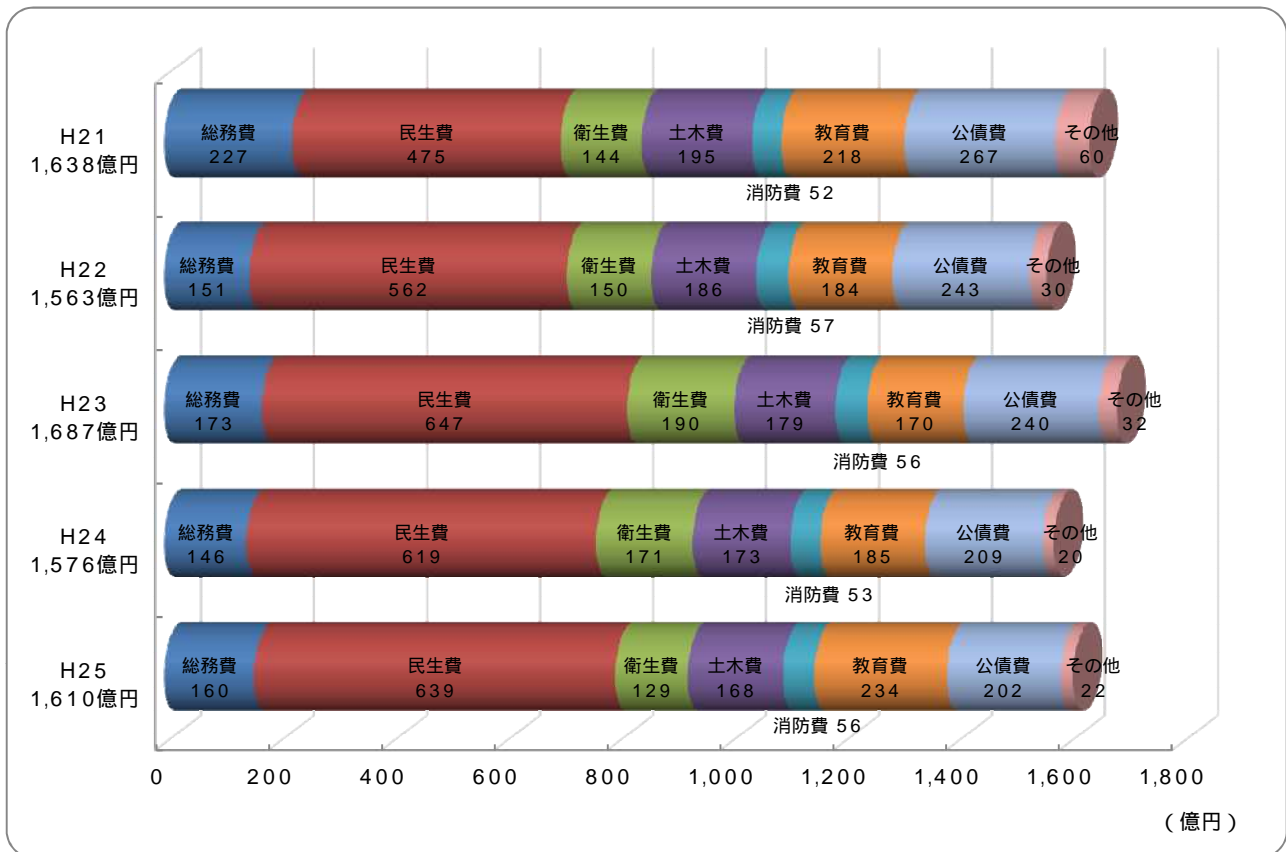
市たばこ税は、税率の改正により前年度に比べ1億8千万円の増額となっています。事業所税は、課税床面積の減等により前年度に比べ4千万円の減額となっています。

4. 歳出の状況

(1) 目的別

Point!

歳出の状況を目的別に見てみると、社会保障関係経費の増大により民生費が年々増加傾向にある一方、公債費（借金の返済）は減少傾向にあります。



<総務費> 財政基金積立金の増などにより前年度に比べ14億4千万円の増額となっています。

<民生費> H24年度は特別養護老人ホーム整備事業費の減などにより減額となりましたが、年々増加傾向にあり、H25年度は生活保護扶助事業経費や障害者介護給付費等事業経費の増などにより前年度に比べ20億3千万円の増額となっています。

<衛生費> H24年度に東部総合処理センターの建設が終了したことなどにより前年度に比べ41億9千万円の大幅な減額となっています。

<土木費> 県施行事業地元負担金（阪神本線連続立体交差事業費）の減などにより前年度に比べ4億5千万円の減額となっています。

<消防費> 通信施設等整備事業費（消防救急無線デジタル化事業費）の増などにより前年度に比べ2億9千万円の増額となっています。

<教育費> 用地取得に伴う仮称第46小学校（高木北小学校）新設事業費の増や給食物資購入事業経費の増などにより前年度に比べ48億7千万円の大幅な増額となっています。

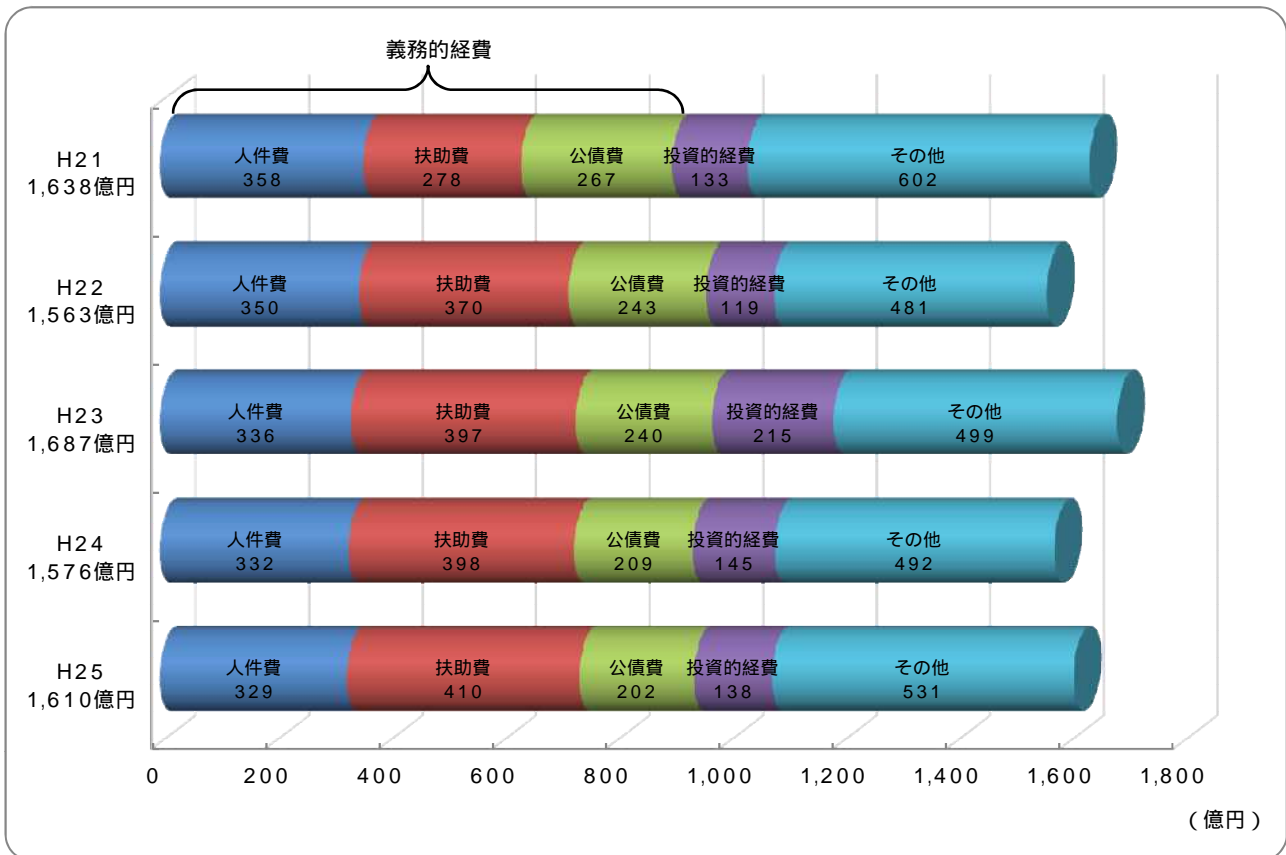
<公債費> 返済のピークが過ぎたため減少傾向にあります。

災害復旧や西部総合処理センター建設のために借り入れたH9年度の借金の元金返済が、H24年度に終了したことなどにより前年度に比べ6億9千万円の減額となっています。

(2) 性質別

Point!

歳出の状況を性質別に見てみると、義務的経費が全体の半分以上を占めています。義務的経費の中では、人件費、公債費（借金の返済）は減少傾向にありますが、扶助費が増加傾向にあります。



- < 人件費 > 団塊の世代の職員の退職がピークを過ぎたことなどにより減少傾向にあります。退職手当や給料の減などにより前年度に比べ2億6千万円の減額となっています。
- < 扶助費 > 年々増加傾向にあり、H25年度はH21年度に比べ約1.5倍になっています。生活保護費をはじめとする社会保障関係経費が増加しています。前年度より生活保護扶助費で6億2千万円、障害者介護給付費等で5億1千万円の増額で、扶助費全体で11億7千万円の増額となっています。
- < 公債費 > 返済のピークが過ぎたため減少傾向にあります。災害復旧や西部総合処理センター建設のために借り入れたH9年度の借金の元金返済が、H24年度に終了したことなどにより前年度に比べ6億9千万円の減額となっています。
- < その他 > 学校給食費の予算を市の予算に組み込んだこと（給食食材の購入や運搬等を直営化）や財政基金への積立の増などで前年度に比べ3億8千万円の増となっています。

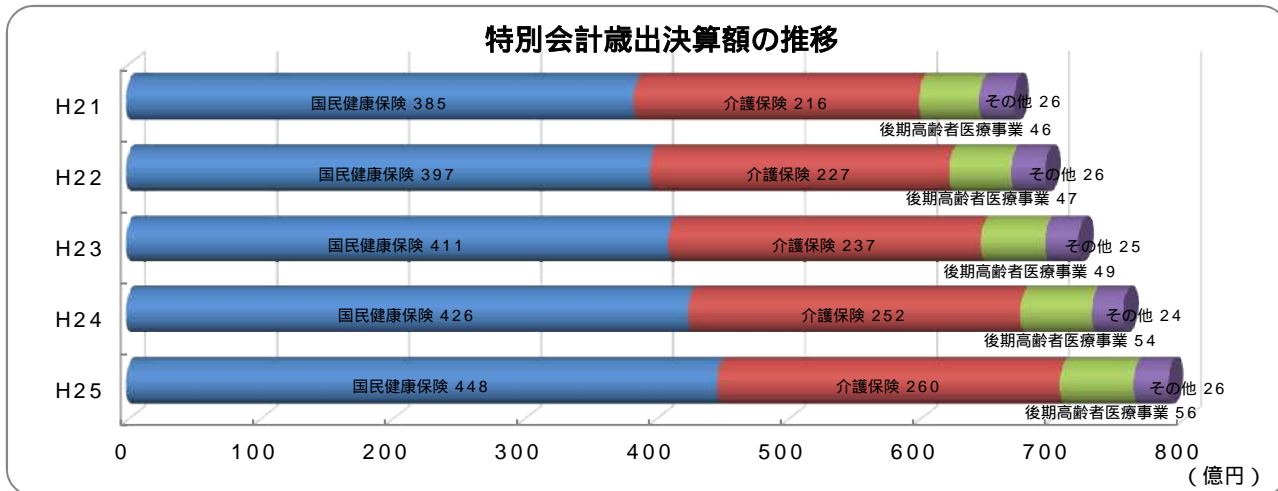
～用語解説～

義務的経費・・・人件費、扶助費、公債費は毎年度の支出が義務付けられており、容易に減らすことができない経費のことです。

なお、義務的経費の割合が大きくなると、新しいサービスや公共施設の建設などが難しくなります。

5. 特別会計の決算状況

国民健康保険特別会計は、医療費の増などにより前年度より22億806万円（5.2%）の増となり、介護保険特別会計は、介護サービス利用の増加により前年度より7億5,873万円（3.0%）の増となりました。また、後期高齢者医療事業特別会計は、高齢化による被保険者数の増により、前年度より1億9,962万円（3.7%）の増となりました。なお、特別会計全体では33億5,998万円（4.4%）の増となっています。

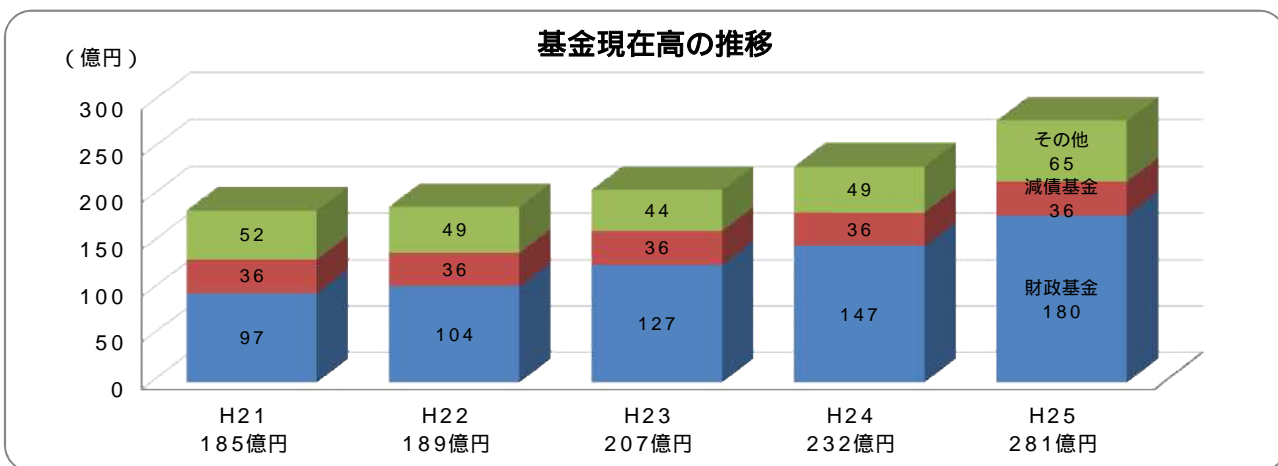


～用語解説～

特別会計・・・特定の目的のための会計で保険料など特定の収入があり、一般会計から切り離して、その収入・支出を經理する会計のことです。西宮市には11の特別会計があります。

6. 西宮市の貯金

市の貯金は「基金」と呼ばれています。H25年度末の基金現在高は281億円で、前年度に比べ49億円の増となっています。これは、決算上生じた剰余金等から33億円を財政基金に積み立てたことなどによるものです。



一般会計、特別会計の合計額で、土地開発基金を除く。

～用語解説～

財政基金・・・災害復旧など、財源不足が生じたときに取り崩すことを目的として設置している基金です。

減債基金・・・市債の償還（返済）等に必要な財源を確保するために設置している基金です。

7. 西宮市の借金

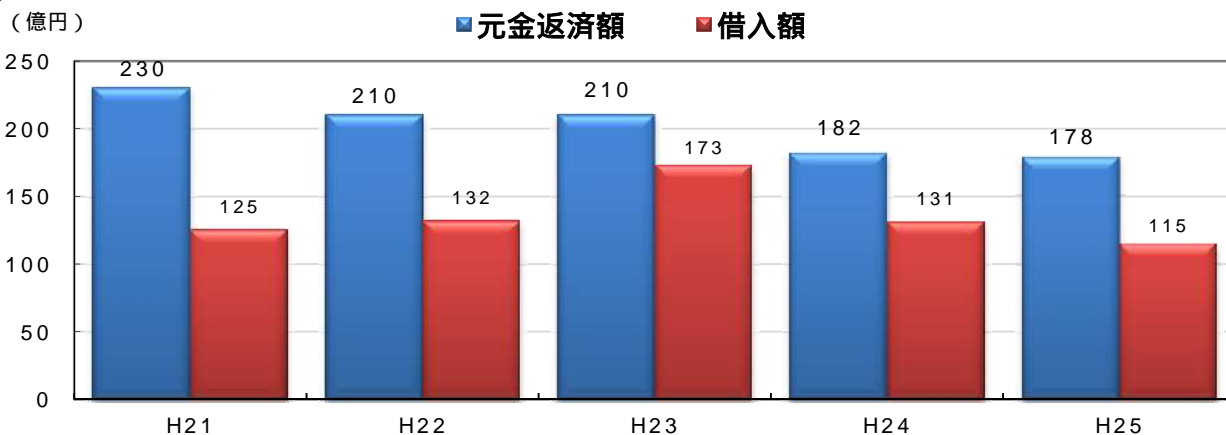
Point!

借入金の元金返済以上に借金をしないことで、市債残高を減らし、財政健全化を図っています。

学校や道路などの公共施設の整備などで金融機関などから長期的に借り入れる市の借金のことを市債といいます。

公共施設を整備するには一時的に多額の費用が必要になります。建設した年度だけでなく、その後長期間にわたりその施設を利用することから、市債を活用して建設費を複数年かけて返済していくことで、現在の市民と将来の市民の「世代間負担の公平」を図っています。

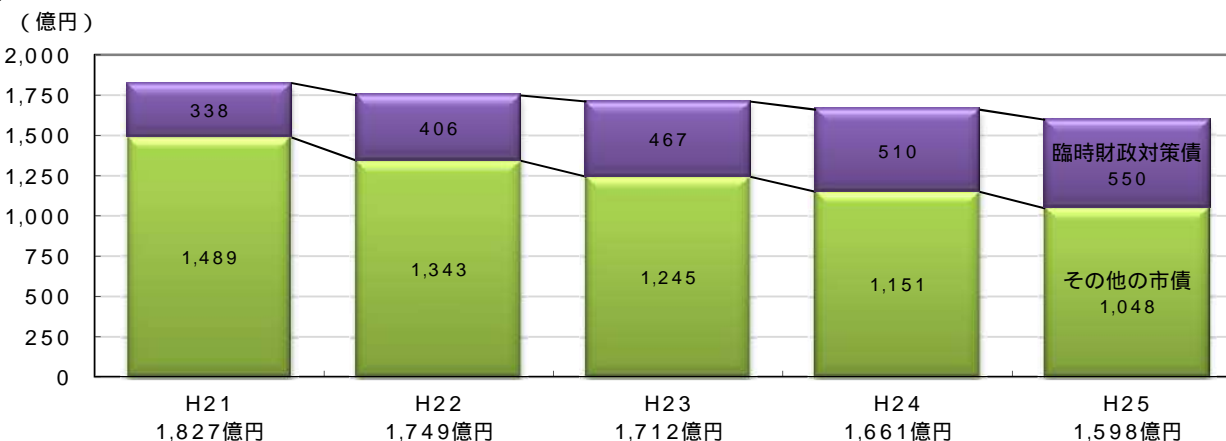
(1) 市債の元金返済額と借入額の推移



一般会計、特別会計の合計額で、借換債を含む。

H25年度の元金返済額は178億円となっています。主な減の理由は、災害復旧や西部総合処理センター建設のために借り入れたH9年度の借金の元金返済がH24年度に終了したことによるものです。

(2) 市債現在高の推移



一般会計、特別会計の合計額。

H25年度末での市債現在高は1,598億円となっています。前年度末に比べ臨時財政対策債が40億円の増となりましたが、主に震災復興に伴う区画整理などの借金返済が進んだことにより、その他の市債で103億円の減となったため、全体で63億円の減となりました。

～用語解説～

臨時財政対策債・・・国から地方公共団体に交付する地方交付税の原資が足りないために、不足分の一部をいったん地方公共団体が借金をしてまかなう地方債のことです。H13年度から導入され、他の地方債と違い、建物の建設などに限らず自由に使うことができ、その返済額が翌年度以降の地方交付税で賄われることとなっています。

8. 投資的事業の状況

投資的事業とは、道路・公園・学校・公営住宅の建設など社会資本の整備や、災害によって被害を受けた施設等を復旧するための事業です。

事業費は一般会計、特別会計あわせて約139億円で、前年度に比べ約6億円の減額となっています。

投資的事業の事業費と財源内訳

(単位 千円)

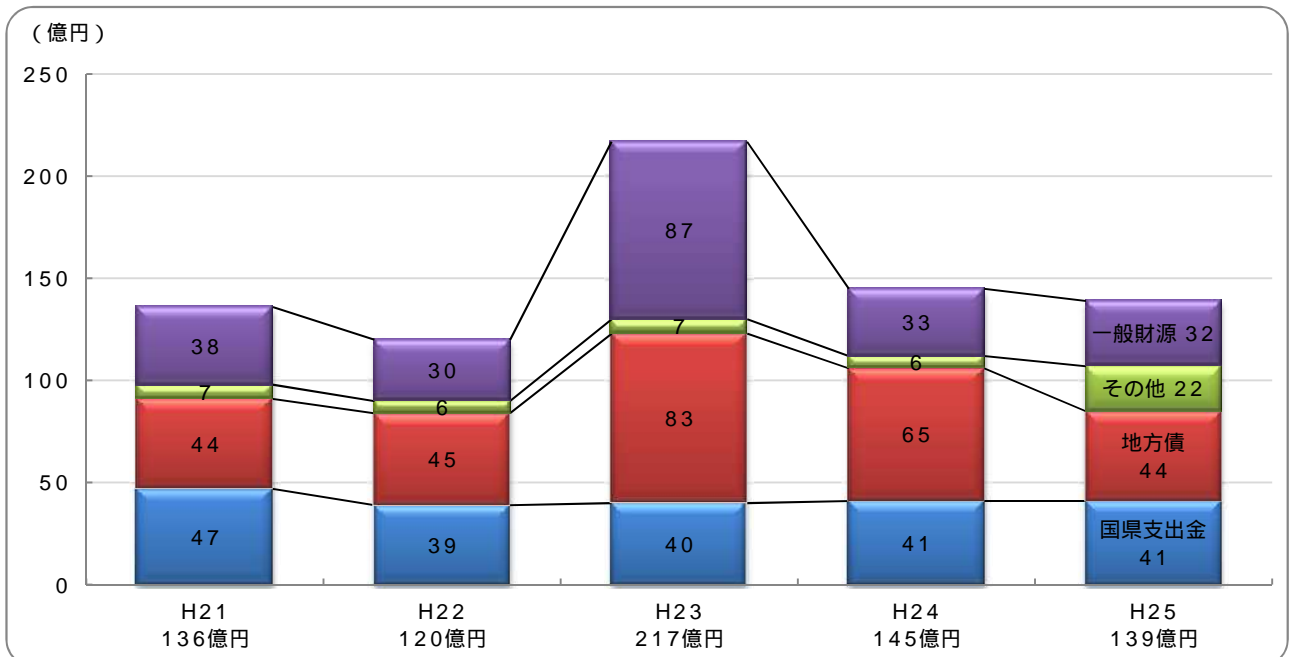
区 分	事 業 費	財 源 内 訳			
		国県支出金	地 方 債	そ の 他	一 般 財 源
一 般 会 計	13,791,270	4,101,812	4,362,400	2,184,385	3,142,673
特 別 会 計	78,173	1,050	69,300	7,745	78
合 計	13,869,443	4,102,862	4,431,700	2,192,130	3,142,751

主な投資的事業

(単位 千円)

事 業 名	事 業 費	事 業 概 要
仮称第46小学校(高木北小学校)新設事業	3,026,311	高木小学校の過大規模を解消するため、同小学校区内で新設校の整備のための用地購入及び基本設計を完了し、実施設計に着手しました。
学校園施設耐震補強事業	2,155,877	新耐震基準を満たさない学校園施設を対象に、安全で快適な教育環境の整備・確保を目的として、耐震補強事業を年次的・計画的に実施しました。平成25年度は、26校園で計41棟の耐震補強工事を行い、校舎建替えを除く補強工事による耐震化は完了しました。
市営住宅整備事業	1,155,806	平成24年4月に策定した「西宮市営住宅整備・管理計画」に基づき市営住宅の統廃合を進めています。平成25年度は、甲子園九番町第2期事業の本体工事が完了しました。また、石在町団地整備事業はPFI事業者を選定し、設計作業を経て工事に着手しました。
学校施設整備事業	694,171	小学校施設では、北夙川小学校、苦楽園小学校及び樋ノ口小学校でエレベーターを設置し、瓦木小学校及び生瀬小学校で外壁改修工事を、甲陽園小学校で屋上防水工事をを行いました。中学校施設では9校の普通教室などに空調設備を整備しました。
民間保育所等整備事業	504,113	増大する保育需要に対応するため、新設保育所3ヶ所、既存保育所の増築1ヶ所、賃貸物件を活用した分園1ヶ所及び小規模保育施設9ヶ所を整備しました。

H21年度～H25年度の総事業費及び財源の推移は以下のとおりです。なお、H23年度は東部総合処理センター建設工事の本格化や、土地開発公社の長期保有地等の買戻しにかかる用地買収費などにより大幅な増となっています。



9. 主な財政指標

(1) 経常収支比率

Point!

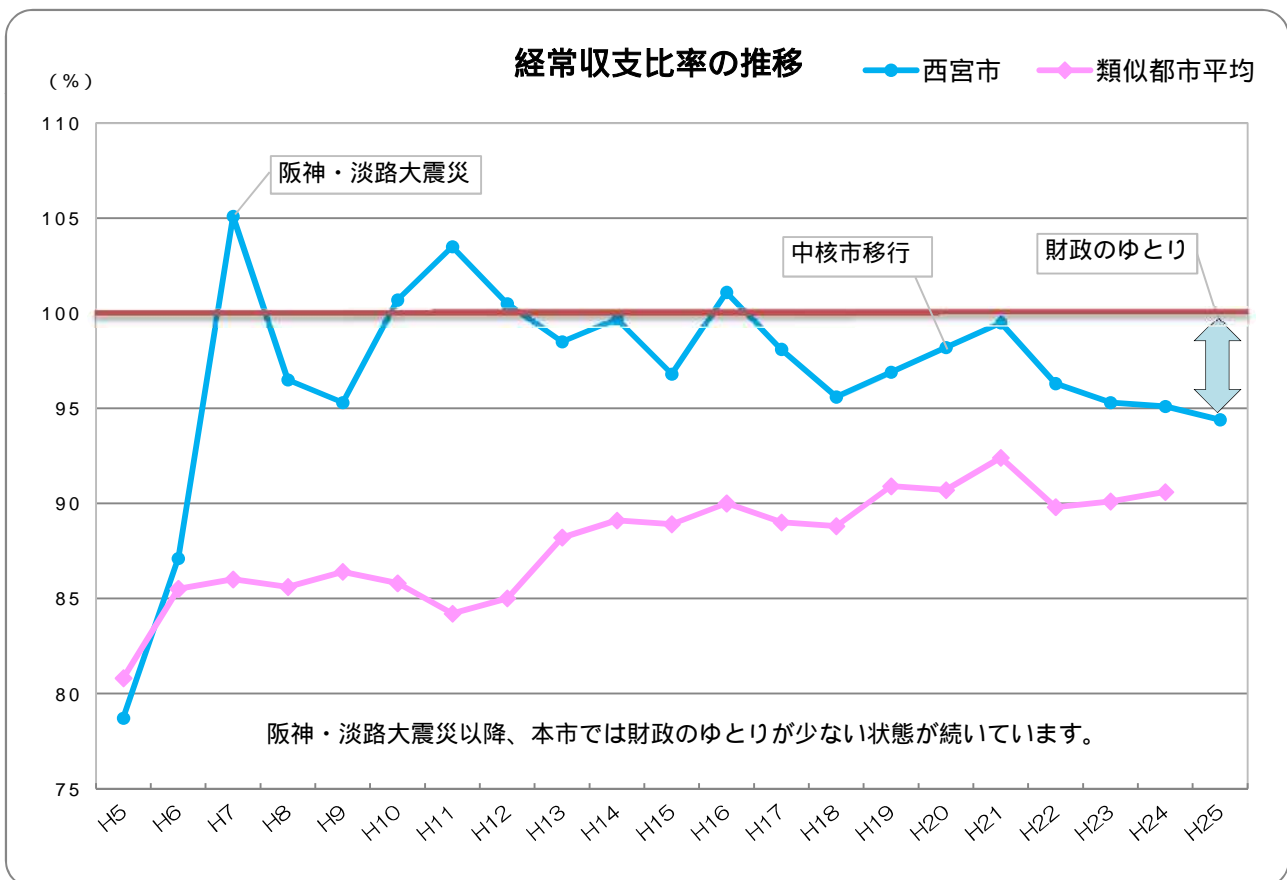
平成25年度は94.4%で前年度(95.1%)と比べて0.7ポイント改善しています。
ここ数年改善傾向で推移していますが、依然として類似都市平均より高い状況が続いています。

経常収支比率は、財政構造の弾力性を判断する指標で、人件費・扶助費・公債費などの経常経費に、市税収入等の経常一般財源が、どれだけ充当されたかを示す比率です。数値が低いほど財政にゆとりがあると言えます。

これを家計に例えると、給料に占める食費やローン返済などの使い道の決まった支払いの割合で、比率が低ければ、旅行などの自由に使えるお金が多くなり、家計にゆとりがあるというものです。比率が100%を超えると、給料だけではそうした決まった支払いができず、貯金の取り崩しや借金などに頼らなければ家計が成り立たない状態になります。

西宮市では、平成25年度は94.4%で、前年度と比べて0.7ポイント改善しています。これは市税や株式等譲渡所得割交付金の増などによるものです。

類似都市と比較すると、歳出総額に占める義務的経費(人件費・扶助費・公債費)の割合が高くなっており、弾力性に欠けた財政構造になっています。



類似都市は、12年度以前は - 5 類型、13年度以降は - 5 類型、17年度以降は - 3 類型、20年度以降は中核市。類型は人口及び産業構造により分類される。

(2) 財政力指数

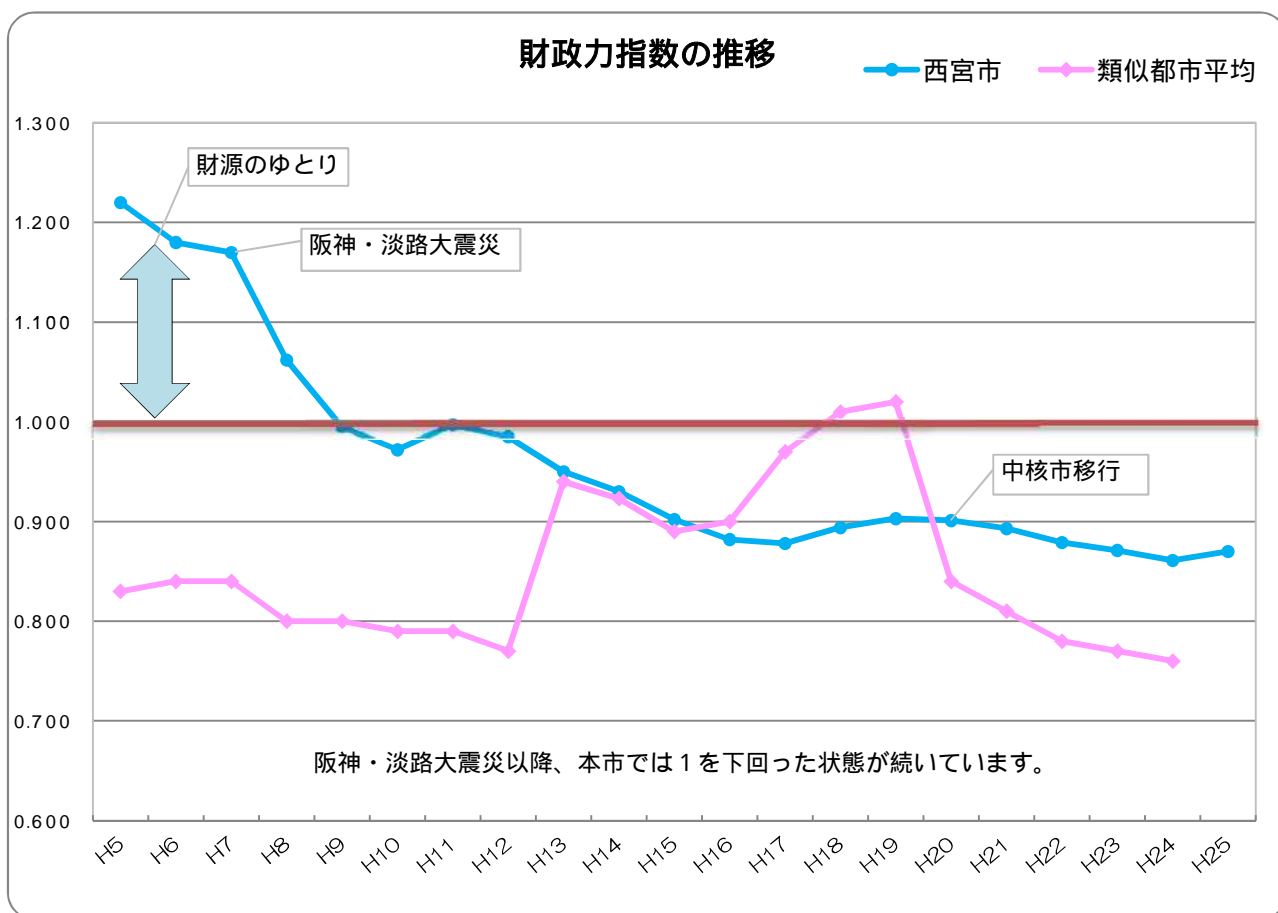
Point!

平成25年度は0.870で、前年度(0.861)と比較すると0.009ポイント改善しています。

財政力指数は、地方交付税法の規定により算定した基準財政収入額を基準財政需要額で除した数値で、数値が大きいほど財政力が強いことを表しています。一般的に税収等が豊かで普通交付税の交付を受けない不交付団体は、この指数が1を超えることになり財源にゆとりがあるということになります。

西宮市では、平成25年度は0.870で、前年度と比較すると0.009ポイント改善しています。

阪神・淡路大震災以降、数値は低下傾向ですが、類似都市と比較すると、やや高い数値となっており、これは西宮市の財政基盤がやや強いことを示しています。



類似都市は、12年度以前は - 5 類型、13年度以降は - 5 類型、17年度以降は - 3 類型、20年度以降は中核市。類型は人口及び産業構造により分類される。

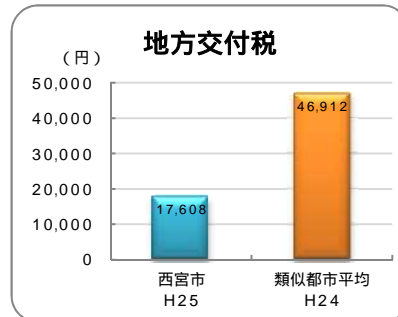
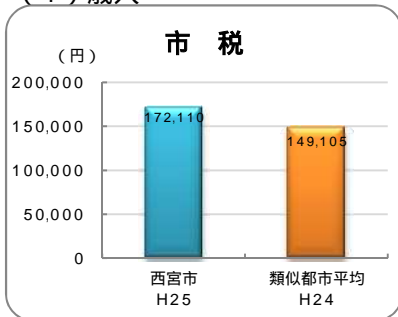
10. 市民一人あたりの決算額

類似都市との比較を行う為、普通会計の数値を用いています。

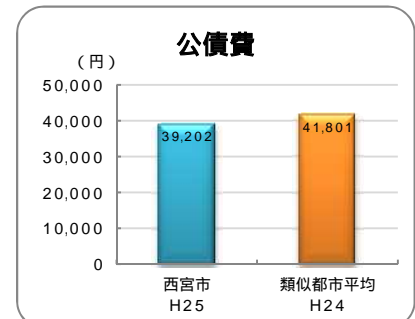
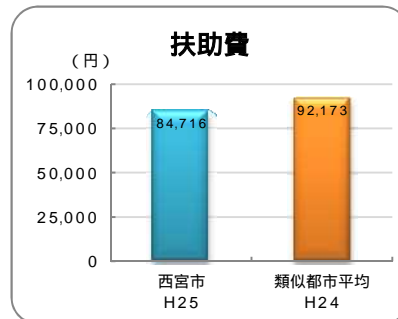
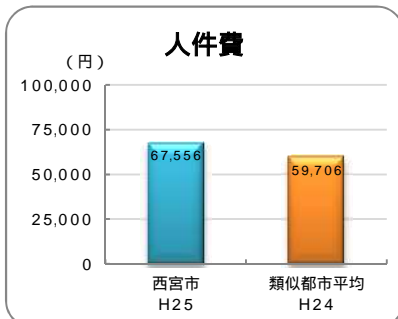
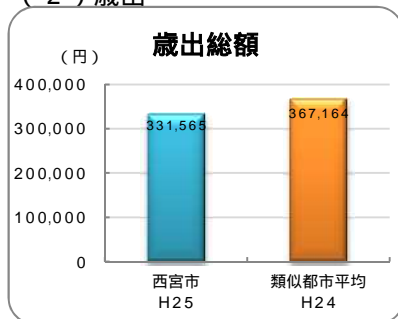
類似都市平均はH24年度財政状況類似団体比較カードのデータに基づいています。

西宮市(H25)の数値は住民基本台帳に基づく人口482,301人(H26年3月31日現在)より算定しています。

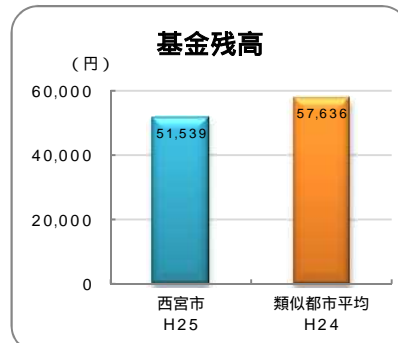
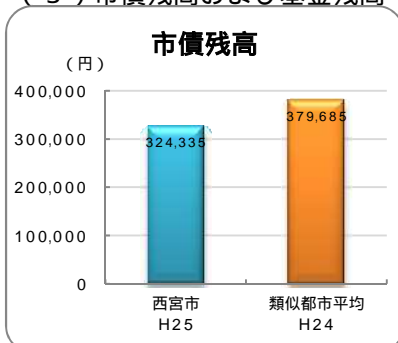
(1) 歳入



(2) 歳出



(3) 市債残高および基金残高



~用語解説~

普通会計・・・地方公共団体ごとに各会計の範囲が異なり、団体間の財政比較が難しいため、地方財政の統計上、統一的に用いられる会計区分のことで、西宮市では、一般会計のほか区画整理清算費、中小企業勤労者福祉共済事業、公共用地買収事業、母子寡婦福祉資金貸付事業の各特別会計を含み、会計間の重複額等を控除して一つの会計にまとめたものです。